

特別企画：四国地区のリース業者の業績動向調査

2015年度の総収入高は前年度比3.1%増、利益額合計は20.9%増

はじめに

リース統計（2016年上半期）（公益社団法人リース事業協会）によると、2016年上半期の全国のリース取扱高は前年同期比で2.0%増加していた。国内景気が緩やかな回復を続けるなかで、リースの取扱高が増えているようだ。ただ、業界内での競争が激しく、収益を維持しながら、取扱高を増やしていくことがリース業者共通の課題となっている。

そこで、帝国データバンク高松支店では、四国に本社を置くリース業者の動向を探るため、2013年度から2015年度の収入高、利益額（当期利益、以下同じ）、従業員数の変化を捉えるとともに、収入高上位企業を抽出した。

今回の調査は、四国に本社を置くリース業者326社のうち、2013年度（2013年4月期～2014年3月期）、2014年度（2014年4月期～2015年3月期）、2015年度（2015年4月期～2016年3月期）の年収入高が比較可能な296社を対象に実施。

調査結果（要旨）

1. 四国に本社を置くリース会社296社の2015年度の総収入高は前期比3.1%増の1441億9200万円。
2. 上記296社のうち、2015年度の「増収」企業数は84社（構成比28.4%）で、「減収」と同数であった。「増収」企業数は2014年度（110社・同37.2%）と比べると減少していた。
3. 上記296社のうち、3年度連続で利益額が比較可能な99社の2015年度の利益額合計は前年度比20.9%増の41億1800万円であった。2015年度の「増益」企業数は44社（構成比44.4%）で、「減益」の55社（同55.6%）より少なかった。
4. 上記296社のうち、3年連続で従業員数（正社員のみ、役員・パートなどを除く）が判明している285社の従業員総数は3,485人。2014年に比べ14人（0.04%）減少していた。

1. 総収入高

四国に本社を置くリース業者 326 社のうち、3 年度連続して収入高が判明している 296 社の 2015 年度の総収入高は 1441 億 9200 万円で、2014 年度に比べ 3.1% 増加していた。2014 年度の総収入高は 1398 億 1600 万円で、2013 年度（1365 億 9000 万円）に比べ 2.4% 増となっており、2 年度連続で増収となった。

2015 年度は、輸出が好調だったこともあり、企業の設備投資が活発であったことから工作機械、産業機械向けのリースが増加した。また、東京、大阪などの大都市圏でのリース案件を増やした企業も多かった。



2. 収入高動向

分析対象である 296 社の収入高の動向をみると、2015 年度の「増収」企業数は 84 社（構成比 28.4%）で、2014 年度（110 社・同 37.2%）と比べると、26 社減少していた。

一方、「減収」企業数は 84 社（同 28.4%）で、2014 年度（82 社・同 27.7%）と比べて 2 社増加していた。

2 年度連続で「増収」となった企業数は 46 社（構成比 28.4%）だった。一方、連続して「減収」となった企業は 23 社（同 7.8%）であった。

増収企業数が大幅に減少するなかで、2015 年度の総収入高が増加したのは、「増収」企業の 1 社当たりの増収幅が拡大したことが要因の一つだった。

■ 増減収状況

	2014年度		2015年度	
	社数	構成比(%)	社数	構成比(%)
増収	110	37.2	84	28.4
うち2年度連続増収			46	15.5
減収	82	27.7	84	28.4
うち2年度連続減収			23	7.8
横ばい	104	35.1	128	43.2
合計	296	100.0	296	100.0

3. 収益動向

分析対象の296社のうち、3年度連続して利益が比較可能な99社の2015年度の利益額合計は、前年度比20.9%増の41億1800万円だった。2014年度の利益額合計は、前年度比36.2%減の34億700万円で、2年連続増益となった。

「増益」企業数は44社（構成比44.4%）で、2014年度（60社・同60.6%）と比べると16社減少していた。

一方、「減益」企業数は55社（同55.6%）で、2014年度（38社・同38.4）と比べて17社増加していた。

連続して「増益」の企業数は19社（構成比19.2%）で、連続して「減益」の企業数（14社・同14.1%）を上回っていた。

「増益」企業数が減少し、「減益」企業数が増加したにもかかわらず、2015年度の利益額合計が増加したのは、「減益」企業の1社当たりの減益額が大幅に縮小したことが大きな要因だった。

■ 利益額合計推移



■ 増減益状況

	2014年度		2015年度	
	社数	構成比(%)	社数	構成比(%)
増益	60	60.6	44	44.4
うち2年度連続増益			19	19.2
減益	38	38.4	55	55.6
うち2年度連続減益			14	14.1
横ばい	1	1.0	0	0.0
合計	99	100.0	99	100.0

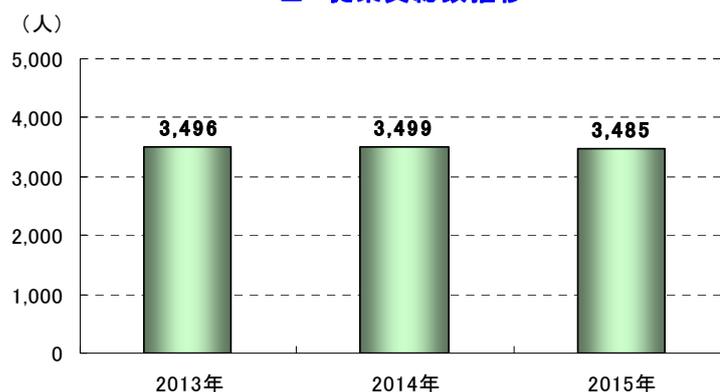
4. 従業員総数推移

分析対象である296社のうち、3年連続で従業員数（正社員のみ、役員・パートなどを除く）が判明している285社の2015年の

従業員総数（各年の12月末データ）は、3,485人で、2014年と比べ14人（0.04%）減少とほぼ横ばいとなっていた。2014年

（3,499人）は2013年（3,496人）と比べて3人（0.01%）増加しており、2年連続で横ばいとなった。

■ 従業員総数推移



5. 収入高上位 10 社

1位のいよぎんリースは、伊予銀行の連結子会社で、同行やグループ企業のほか愛媛県内の信用金庫なども一部出資を行っている。企業向けのリース事業を行い、四国4県以外にも大分、広島、岡山、大阪に営業拠点を設け、瀬戸内圏を営業エリアとしている。

2016年3月期は、企業の設備投資が堅調であったことや、県外企業を中心に新規案件獲得に努めたことが功を奏し増収となった。

2位の阿波銀リースは、阿波銀行の連結子会社で、同行やグループ企業のほか、徳島県の有力企業などからも出資を得ている。四国外では東京、大阪に営業拠点を設けている。車両などの輸送機器を中心とした企業リースを行っている。

2016年3月期は、運送会社向けのリース案件などを中心に東京、大阪での新規案件の増加したことから増収となった。

3位の百十四リースは、百十四銀行の連結子会社で、同行のグループ企業のほか、三菱UFJリースなどからも出資を得ている。四国全域のほか岡山県を営業エリアとしており、機械装置類を中心とした企業リースを行っている。

2016年3月期は、リース収入は横ばいであったが、割賦販売収入が前期より増加したことから増収となった。

■ 四国 2015年度リース業者収入高上位10社

(単位:百万円)

順位	社名	所在地	2015年度収入高
1	いよぎんリース株式会社	愛媛県松山市	15,249
2	阿波銀リース株式会社	徳島県徳島市	12,530
3	百十四リース株式会社	香川県高松市	9,135
4	讃岐リース株式会社	香川県高松市	8,277
5	四銀総合リース株式会社	高知県高知市	6,865
6	トモニリース株式会社	香川県高松市	6,354
7	四国医療サービス株式会社	愛媛県松山市	6,120
8	オーシャンリース株式会社	高知県高知市	5,989
9	株式会社ビコムキタムラ	高知県高知市	5,275
10	ひめぎん総合リース株式会社	愛媛県松山市	3,230

※2015年4月期～2016年3月期が対象。

まとめ

四国に本社を置くリース業者の総収入高は2年連続で微増となっていた。一方、2015年度の利益額総額は増益となったが、2013年度の利益額合計までは回復しなかった。同業者間の競争が激しくなるなかで、リース料率の低下が収益に影響しているようだ。また、従業員は2年連続で横ばいとなっていることも判明した。

四国の設備投資は堅調ではあるが、経済規模の関係で案件に限りがある。そこで、大都市圏での営業を強化しているリース業者も多い。企業のコスト削減に繋がるリースを活用した新サービスが生まれているが、従来からのリース契約に加え、これらのサービスを積極的に進めることが収益確保につながっていくのだろう。

当レポートの著作権は株式会社帝国データバンクに帰属します。

当レポートはプレスリリース用資料として作成しております。報道目的以外の利用につきましては、著作権法の範囲内でご利用いただき、私的利用を超えた複製および転載を固く禁じます。

(内容に関する問い合わせ先)

(株) 帝国データバンク 高松支店 担当：伊藤

TEL:087-851-1571 FAX:087-851-3837